

心のともしび



暗いと不平を言うよりも
すすんであかりをつけましょう

神のまなざしで

すべてのいのちを守る宣教の使命

京都教区 パウロ大塚喜直 司教



日本司教団は二〇〇一年に『いのちへのまなざし』を発表し、混迷を続ける現代社会で時のしるしを見極めながら、神のまなざしでいのちの大切さとその尊厳を守るように広く一般の方々と呼びかけています。そして二〇一九年の教皇フランシスコの訪日テーマも、『すべてのいのちを守るため』でした。人間のいのちが粗末にされる風潮や事件が後を絶たない世の中で、カトリック教会のマスコミを利用した活動は、その形態はさまざまであっても、基本的には人間のいのちに仕えるものです。

今年創設七〇周年を迎える「心のともしび運動」も出版物やテレビ・ラジオ番組を通して、人生に悩み傷つき倒れたどれほど多くの人を励ましてきたことでしょうか。自殺を考えた人が思いとどまり生きる決心をし、いのちの尊さを知り中絶せずに出産したなど、絶望し不安を抱えた人々が新たに生きる喜びを取り戻した人生を歩んでいるのです。

ネット環境が日々整備されていくグローバルな世界にあつて、あくなき消費と競争を強いられる現代人が直面するいのち・平和・環境問題

に対して、教会がマスコミを通じて福音の光を投げかける重要性は日々増えています。教会が福音的な呼びかけを行うときの基本姿勢は、受ける人々の良心を尊重し、受け手の判断と選択と決断の自由を尊重し、その実行に寄り添うというものです。したがって、人々の良心に向けてキリストの教えと生き方から学ぶ真理を確信もつて発信しますが、その語り方は教えを強要したり、諸問題の解決の答えを示したりはしません。人は必ず真理そのものの力によって引き付けられます。

第二バチカン公会議は、『真理そのものには、優しく、そして強く、心にしみ込む力があり、これによる以外には、義務を負わせることはできません』と、真理の告知に関する原則を宣言しました。コロナ禍にあつて現代人は、これまでの社会経済活動や個人のライフスタイルの是非を問われ、新しい生き方を模索しています。今こそ「心のともしび運動」は、人々の生き方と社会の動きを福音化していく

宣教を力強く果たすときなのです。

心のともしびホームページ (<https://www.tomoshibi.or.jp>)



【ラジオ番組「心のともしび」】 月曜日から土曜日までの毎朝、全国ネットで放送中！

各方面で活躍中の執筆者約30名が、その月のテーマに沿って書き下ろしたお話をナレーターの朗読でお届けする番組です。放送されたお話の中から毎月6篇を選んで機関紙に掲載しています。ぜひ、他の方のお話もお聴きください。パソコンやスマートフォンでラジオが聴けるアプリ「ラジコ」のタイムフリーなら過去1週間以内に放送された番組が無料で聴きいただけます。 ※パソコンの方は「radiko.jp」にアクセスしてください。

スマートフォンの方はアプリをダウンロードしてください。 ➡



放送時間やラジコなどのお問い合わせは、

心のともしび運動YBU本部 電話 075-211-9341 または、ホームページをご覧ください。